

## 第5回オンライン自主研修 感想・意見

① 本年2月9日（火）に視聴した講演を再度視聴することになりましたので、専門的で難しい内容ですが、幾分理解が進んだと思います。

刑務所に入所される方々の中で、薬物依存者は少なくありません。そのため、将来、薬物依存の方を対象に面談を行うことも想定されます。その意味で、下記の内容は、心に留めておきたいと思えます。

【薬物使用対象者への最初の接し方について】

○普通の人として接する。

○プライドを傷つけない。

○最初の面談のときは、薬物の話はしない。

○長い生活史の中で形作られてきたものなので、なかなか変えられないことを理解する。正論では解決しない、聞き流すことも必要。

② 今は死語となった「仕事依存」は懐かしい。まさに「仕事人間」「企業戦士」世代です。

さて、保護司の接し方は

- ・「普通の人」として接する
- ・自尊心を傷つけない
- ・正論は反発されるだけ、聞き役に徹する
- ・長い目で見ると
- ・最終判断は本人である

などで、保護司の役割は、ダルク、NAへの橋渡し役である。

とてもゆっくり、丁寧に分かりやすい内容であった。

### 東灘区保護司会

#### 第5回オンライン自主研修のご案内

11月18日(木)10時から11月20日(土)22時まで

※令和3年2月9日(木)14:00～15:46に配信したものです。

「保護司のための薬物依存症者への理解と対応  
—薬物依存とアディクションを理解しよう—」

薬物依存症の問題を抱える人に、私たち保護司はどのような支援ができるでしょうか。これまで薬物依存のある刑務所出所者等の治療と社会復帰施策の推進に携わってこられた和田氏に、薬物依存症の理解と支援のあり方についてご講演いただきます。



講師 和田 清氏 精神科医

千葉県精神科医療センター医師、国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部長等を経て、令和2年3月まで埼玉県立精神医療センター依存症治療研究部長。

現在、同顧問及び昭和大学薬学部客員教授。

専門は、薬物乱用・依存全般。「保護司のための薬物依存Q&A」監修。

#### ◆申込方法◆ 申込締切り：10月29日（金）

- ・事前申込制です。
- ・以下のURLにアクセスいただくか、QRコードをタブレットやスマートフォンで読み取っていただき、申込フォームに必要事項を入力の上、お申込みください。

URL:<https://kouseihogo-kouenkai.jp/>

- ・日本更生保護協会のホームページからも申し込めます。

日本更生保護協会 お知らせ

検索



- ・申込受付後は、

- ①「参加申込を受付ました」と自動返信メールが送信されます。  
※自動返信メールが届かない場合は、入力メールアドレスに誤りがあるか、迷惑メール防止設定により受信が拒否されている可能性があります。  
申込時のメールアドレスをご確認の上、事務局までご連絡ください。
- ②申込時に入力いただいたメールアドレスに、講演会を視聴するためのURLがメールで講演会ごとに届きます。  
・第5回：11月8日に視聴用URLを配信。  
・第6回：11月29日に視聴用URLを配信。  
※上記日付を過ぎても視聴用URLが届かない場合は、事務局までご連絡ください。
- ③開催期間中（第5回：11月18日～20日、第6回：12月9日～11日）に、②のURLをクリックすると、講演会を視聴できます。

#### 【自主研修の要領】

ご覧になった感想、意見を100字程度にまとめて

東灘区保護司会広報部会宛

「所属支部」「氏名」「視聴月日」を記入してメールください。（支部長による代行メールでも結構です）  
送付期限は令和3年12月8日（水）です。（期限遵守と100字程度の感想・意見は必須です）

③ 「やめたい」けど「やめられない」私の知り合いの中にも、そのような境遇の中におられる方がおられます。人柄もよく、仕事もできる。しかし、クスリをしているときは凶暴な暴力的な人へと変貌してしまいます。それが落ち着くと「また、やってしまった、死にたい」と泣きながら電話をしてくる。

「一度でもしたら常習者」と和田清先生がおっしゃっていた通りだと思います。では、「一度したら終わり」なのか。確かにある部分においては回復しないという現実があります。しかし、周りの人が見捨てない限りは、立ち直る可能性がゼロではないと思います。

私の友人は、薬物と戦いながら、小さな畑を耕し、自然に触れながら生活をしています。今年もさつまいもが届きました。関わり続けることは、決して無駄ではないと確信しています。

④ 薬物に関する知識がほとんど無かったので、『乱用』の概念に始まり、依存・中毒との違い、そして、嗜癖行動との違いなど、大変勉強になった。また、本人への支援もさることながら、家族への支援の重要性について認識することもできた。そして、他の事案同様、普通に接することの大切さをあらためて学ぶことができた。

⑤ 毎回講演会で感じる事ですが、上から目線でなく、まずは保護司である自分自身が、対象者から学ばせて頂く事の大切さ。

薬物依存では、表現がアディクションであろうが、依存であろうが、自身が精神的に依存している部分をしっかり洗い出し、そこから脱却し、真の自立を目指して生きていないと、たまたま薬物依存に陥った方に寄り添う事はできないと、改めて感じました。

ありがとうございました。良い学びの機会をありがとうございました。

これ、ずっと YouTube で流して頂きたいです！！そして、保護司以外の人間も観れるようになったら有難いです。

⑥ 「依存」は、見た目には全くわからない、脳の異常であること。身体依存と、禁断症状が出ないが渴望するという精神依存の違いもよく分かりました。

薬物を使いがちな状況(空腹、怒り、孤独、疲労)は、どんな人にも起こりうる状況であること、薬物依存者の特徴や望ましい接し方も学びました。

最後の Q&A のコーナー(7問)が、実際の事例に対する詳しい回答と説明で、とても分かりやすく、今後の保護観察の際に心に留めて対応出来れば、と思いました。

⑦ 薬物依存症者に対して「普通の人として接する」と

まとめでありましたが

どの対象者、それに関わる人に対しても

当たり前の事と感じ、また行動したいと思いました